

県立都市公園のあり方検討委員会播磨中央公園部会用資料

河高八幡神社

令和5年2月7日(火)

やしろ国際学習塾 中会議室

資料 1

河高八幡神社（無格社）

1 祭神

応神天皇

合祀祭神

国常立尊

稲倉魂命

創立 天文四年（1535）

元は大久保家の鎮守神を祀り、厄除けの靈験頗る顕著なりと称され、後に現在の場所に移したといわれる。明治四十二年（1919）無格社猿田彦神社とその境内にあった稻荷神社の祭神を合祀したと記される。

2 歴史

『約350年前、寛文年間（1661年～72年）に河高村に住む「大久保政茂」が家宅の鎮守のため、八幡の小像を家宅のそばに安置してお祭りしていた。それをその子「政信」が、村内の島の山や万治新田を開発した際、現在の「役山」に遷した。そして、山麓の田地、数反歩を祭祀の費用にあてた。後、村内住民で上条地区内に居住する者たちが八幡講を組織して祭事にあたった。（中略）

正月の19日（現在は2月11日）にその年の災厄を逃れる為、厄神祭が挙行された。この祭りに近郊近在の老若男女が続々と参詣して、その年の厄払いをした。また、境内で近郊から地方力士が参集して大熱戦を展開したもので、露店商も参道狭しと集まって大賑わいを見せたものである。また本殿から100mほど山上にある巨大な大岩のある広場で厄のがれのため厄年の人たちがお金を投げる神事が行われた。（中略）

昔、大岩の場所に長宝寺というお寺があった。現在は消失してない。しかし、その霊地からは五峰の山々が眺められた。また、眼を東に向ければ加古川を往来する無数の筏や、高瀬舟が散見された。このようにいと絶景であったと古文書に記されていることを付け加えておく』

（平成5年 つたえぐさに寄稿された文章の一部抜粋）

3 賽銭投げ

『河高の厄神さんは、参って来た人が投げ銭をして、男の子がひらい（拾い）よりも、あれはいつ時分からはじまったもんか、くわしいことはわかつりません。昔、鳥居から本殿までの参道に、大勢のお乞食さんが並んどりまして、厄年の人が厄払いに喜捨したったんが、だんだんお乞食さんが少のうなって、それやったら村の子供にひらわそうやないか、ということになったんやそうです。』

（平成6年 来し方よもやま話の会 寄稿文から一部抜粋）



2. 八幡神社 (宇治町)

◆祭神 應神天皇 (合祀祭神)・國常立尊 (クニノトコタチノミコト)・稻倉魂命 (ウカノミタマノミコト)

歴史

八幡神社は、八幡山の中腹から山頂に拡がり、境内域は、現在、五峰山光明寺の山麓に築かれた兵庫県立播磨中央公園に周囲を取り囲まれています。その景は、河高生まれの画家丸山靉洲 (文化7年~明治25年) も描いています。

歴史について『加東郡誌 全』には、「天文4年の創立にして厄除けの靈驗頗る顯著なりと称せらる」と書かれ、天文4年(1535)の創立とし、明治42年(1909)12月13日に河高村無格社猿田彦神社および境内にあった稻荷神社の祭神を合祀したと記されています。また、元は大久保家の鎮守神を後に現在の位置にうつし光明寺花蔵院住職を以て別当とし祭事を司らせたことが口碑(言い伝え)にあるとしています。

こうした謂われなどは、大久保家(現大久保隆弘家)に残るいくつかの文書に見ることができます。花蔵院から喜左衛門に宛てた「差入申一札之事」(延宝元年・1673)に、八幡宮祭神を預かり別当として守る事が、宝暦九年(1759)の「寛」には、「寛政十年河高村絵図」(大久保昌信家文書)の八幡神社西に描かれる「長宝寺」



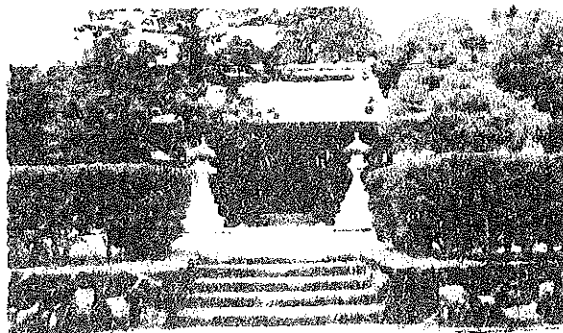
岩端



神社と藤居



日切り地蔵(地蔵石権仏)



八幡神社(正面)

八幡神社景図 部分 (丸山靉洲)

が記されています。そして、明治 17 年 (1884) に八幡講から六郎兵衛宛てに出された「八幡神社事務^{たんにん}擔任祭資料田預り證券」には、元来は大久保七兵衛政行が八幡宮の小像を持参、その子の喜左衛門政茂がこの像を祀る小祠を邸内に建立し家宅の鎮守として崇拝していましたが、その後、孫の喜右衛門政信は宇燒山に祠宇を建立し八幡神社へ遷祀しました。大久保家には八幡神社前に田地があり、その収穫米を神社祭礼費用に充て、花蔵院住職を別当として祭典を擔任し、8月15日を祭礼日と決めました。しかし、明治6年の神佛混淆の祭令があり、花蔵院別当を解任しました。その後は、八幡講中で祭典を旧例の通り旧宅の八幡神社跡地への神酒を供奉するほか、祭礼事務に不備があれば、田地の返納は異論がない旨などが記されており、八幡講が維持管理を付託されることとなった由来を伝えています。



「毘沙門天石棺仏」

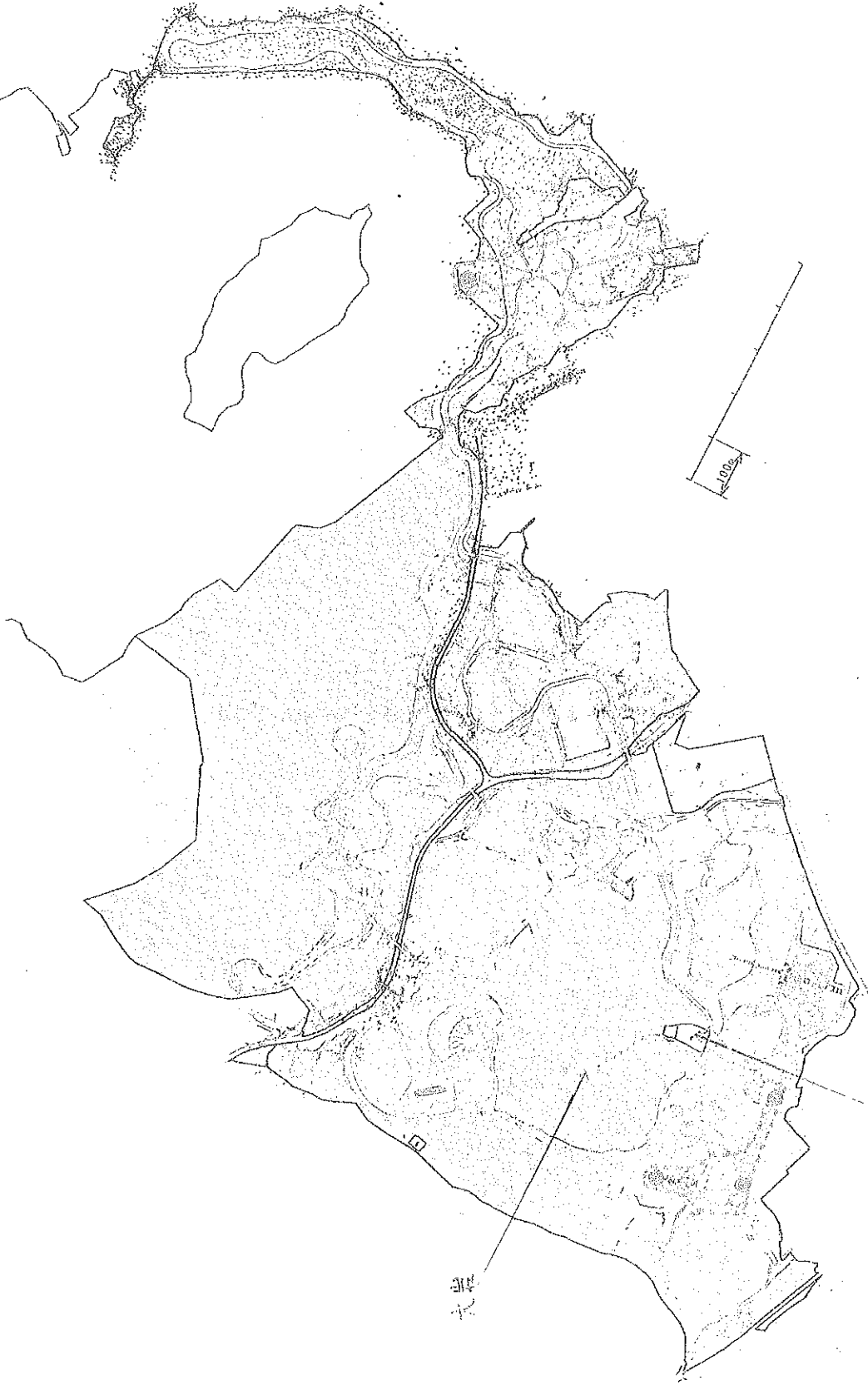
加東市指定文化財として 69 点が指定されている。八幡神社に関するものは 2 点あり 1 つは神社駐車場の入り口にある「地藏石棺仏」、もう一つは神社横手から参道を 200m のぼった先にある大岩の横の岩陰にあった「毘沙門天石棺仏」である。毘沙門天を刻んだ石棺は珍しく室町時代前期の制作といわれる。現在は案内看板があるのみで、本体は加古流域滝野歴史民俗資料館に収蔵されている。平成 30 年には加東市×多摩美 特別展「神 仏 人 心願い地」の開催に際し外部展示された。



石棺仏の安置状況

播磨中央公園ゾーニング図A(案)

資料2-2



施設ゾーン	●	視点場	■	保護ゾーン
利用ゾーン	○	保全ゾーン	□	池
低未利用ゾーン	△	眺望ゾーン	◇	

ハ 階 神 工

厄除
祈願

河高厄神祭

河高の皆様方には平素より八幡神社厄神祭をはじめ各種行事にご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、1年の安全と幸せを願って今年も厄神祭が2月11日（日）に執り行なわれます。今年は昨年同様のコロナへの感染対策を徹底しながら、賽銭投げの行事や巫女さんの奉仕、露店、有志による厄除けラーメン、温泉卵の販売、消防団による吉兆など例年どおりの形で実施します。特別祈祷やお札を買っていただきますと景品が当たる空くじなしの福引もありますので、皆様お誘いの上ご参拝いただきますようご案内申し上げます。

記

日 令和5年2月11日（土）建国記念日

時間 午前7時～午後2時

特別祈祷 受付 午前8時30分～

開始 午前9時～

令和5年 厄年表（本厄）

男	平成11年生まれ	25歳	女	平成17年生まれ	19歳
	昭和57年生まれ	42歳		平成3年生まれ	33歳
	昭和38年生まれ	61歳		昭和62年生まれ	37歳
				昭和38年生まれ	61歳

本厄の前後も前厄後厄と呼ばれ厄年です